

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度第2回弘前市地域包括支援センター運営協議会
開 催 年 月 日	令和6年12月18日(水)
開 始 ・ 終 了 時 刻	13時30分から15時10分まで
開 催 場 所	弘前市役所 前川新館6階 大会議室
議 長 等 の 氏 名	梅村 芳文
出 席 者	委員：梅村 芳文、石岡 隆弘、磯木 雄之輔、成田 和博、東谷 康生、今井 武敏、小川 幸裕、大津 美香、松村 浩二 オブザーバー（地域包括支援センター職員）：堀川 恵、福澤 麻衣子、佐藤 晴樹、佐藤 史、山田 宏介、白石 涼佳、小野 直子、羽場 比呂子
欠 席 者	委員：長谷川 榮知、佐藤 八美、渡部 郁子、長内 郁子
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	福祉部長 秋元 哲 介護福祉課長 工藤 信康 介護福祉課長補佐 工藤 麻子 介護福祉課長補佐兼自立・包括支援係長 伴 英憲 介護福祉課介護事業係長 吉本 照幸 介護福祉課自立・包括支援係主幹 三浦 五月 介護福祉課自立・包括支援係主査 北島 嗣巳 介護福祉課自立・包括支援係社会福祉主事 田中 佑 国保年金課国保健康事業係総括主査 安部 千絵
会 議 の 議 題	(1) 令和6年度上半期地域包括支援センター活動状況について (2) 令和7年度地域包括支援センター運営方針について
会 議 結 果	下記会議内容に記載のとおり
会 議 資 料 の 名 称	第2回弘前市地域包括支援センター運営協議会会議資料 資料1：介護予防ケアマネジメント実績 資料2：包括的支援事業について 資料3：各地域包括支援センター上半期事業計画・事業評価 資料4：令和7年度地域包括支援センター運営方針について 資料5：第8期弘前市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の総括等について

	資料6：居宅介護支援事業所による介護予防支援の指定について
会議内容 (発言者、発言内容、 審議経過、結論等)	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 案件協議</p> <p>4 連絡</p> <p>5 閉会</p>
(事務局)	<p>3 案件協議</p> <p>案件(1)令和6年度上半期地域包括支援センター活動状況について</p> <p>〈資料1を説明〉</p> <p>介護予防ケアマネジメント実績について説明</p> <p>(資料2及び資料2の補足を説明)</p> <p>包括的支援事業について説明</p> <p>(資料3：P9, 10を説明)</p> <p>各地域包括支援センター上半期事業計画・事業評価について説明</p>
(議長)	ただいまの説明に対して、聞きたいこと等ございませんか。
(東谷委員)	ちょっと資料2について、教えていただきたいことがあって、7ページの左上のグラフ1ですが、ほとんど電話相談なんです。その他は何か先に教えていただいてもいいですか。
(事務局)	その他については例えばメールとか、訪問時に別な相談を受けたりした場合にこのその他に含まれてきます。
(東谷委員)	<p>あとの案件のとき話をするかもしれないんですけど、多分いろんな住民の方がいるので、電話と来所だけでないような相談の受け方みたいなものがあるといいのかなとちょっと思ったので、このその他の内訳を教えてくださいました。</p> <p>もう1つ、各包括さんで相談件数がほしい同じか、少し人口減少もあるのか少なくなる中で、グラフ5の東部包括さんが全体の相談件数が伸びてるんですけど、これは何か工夫した結果なものです。それわかればちょっと教えていただきたいなと思います。</p>
(事務局)	まだ上半期だけですので何とも言えないところもあるんですけども、今日オブザーバーとして東部包括さんも来ていた

<p>(東部包括)</p>	<p>だいておりますので、相談件数が伸びていることについて何か思うところがないかを確認してもよろしいでしょうか。</p> <p>しっかりした、これっていうものは今、正直ないんですけども、包括支援センターの周知活動で、いろんな金融機関であったり、高齢者の地域の集まりであったりコンビニ、温泉施設等々、広報活動として回ってはいるんですけども、直接ただパンフレットを置いてきて終わりという形ではなくて、しっかり対面でお話して、包括支援センターの相談といっても具体的にこういうことを相談できますとか、しっかり話しながら周知したっていうところが、相談できるというものに繋がってきているのかなと感じていました。</p>
<p>(議長)</p>	<p>逆に減っているところもあるんですね。北部、どうですか。</p>
<p>(北部包括)</p>	<p>東部さんと同じように上半期だけを取ると、相談件数というのは、例年より低いんですが、これといった原因はないんですが、農家さんが多いので、農作業が多くなると相談件数もぐっと下がる傾向にはあります。下半期についても、11月ぐらいまでは相談の方は下がっていました。今落ち着いてきた段階で、今もう相談が、徐々に多くなってきている傾向にあります。</p>
<p>(議長)</p>	<p>その他ありますか。</p>
<p>(松村委員)</p>	<p>資料2の補足の8ページ、グラフの9で、相談者別でいくと家族が多く、少しずつ若干上がってきてるのと、グラフ中の介護に関する相談が多いと。先ほど会長挨拶にあった通り、核家族化とかの影響を考えていくと、もしかして、先ほどの電話相談が多い話は、離れてる家族が心配になって相談するから電話が多いのかなと思ひ、離れてる家族に情報を提供するのは難しいかなと。今気づいたのがグラフ9の本人のところを見ると、若干ですけど少し増えてきているということは、本人に対する周知の効果が上がってきてるのかなというふうに感じたんですけども。この電話相談は、離れてる家族からの相談が多いのかどうかを感触でいいので、知りたいなと思ひました。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>家族からの相談に関しては、遠方からかどうかまでは集計</p>

	<p>しておりませんので、もしこの場で包括の方から今のお話を聞いて、遠方からの連絡が多いとか感じる事があればご発言いただきたいと思いますのですがどうでしょうか。</p>
(第1包括)	<p>家族からの相談は、同居されていない家族からが多いので、県外の方ももちろんですけども、これからお正月開けると、帰省された方からの相談が増えてきます。基本的には同居されていない方が驚いて連絡をくれるとか、電話での様子がおかしいので見てきて欲しいというようなご相談がある印象を持っていました。</p>
(議長)	<p>案件1に対して何かありますか？</p>
(成田委員)	<p>資料の6番の介護者の離職防止の相談が、最近ちょっとなくて、2件1件ということになっております。最近、結構ケアラーとかそういう問題もあって、今後こういうところも増えてくるのかなと思ひまして、介護者離職防止の相談とは、どういうふうな内容なのかと、あと、もし解決できたなら、どういう解決策があったのかについていうことを聞きたいんですけども。</p>
(議長)	<p>これ、どこが答えられますか。</p>
(事務局)	<p>介護者の離職防止については、それぞれの相談の中で、介護者の方が離職も含めて、相談している場合などに、1件としてカウントしてもらおうようにお話しております。ですから、その相談があった時と思っております。</p>
(成田委員)	<p>離職になってしまったということですか。</p>
(事務局)	<p>離職は、家族が介護していて、例えば、仕事を辞めないといけない状況といった話が出てくるようであれば、相談が複数回答できるようになっていますので、介護についてと離職にも1件というふうにしているかと思ひます。</p>
(成田委員)	<p>どこの会社でもすごい人材不足で、こういう離職は非常に痛い、影響があると思ひますので、今後もしかするとともに増えてくると思ひますし、先ほど遠方の方の相談してありまして、遠方からこっちに帰ってきて介護しなければいけない</p>

	<p>てこともあるので、今後何かこれについて私達協会でも対策していかなければいけないので、後期でもまた具体的なことがあれば、聞きたいなというふうに思いました。</p>
(議長)	<p>あとご質問、ご意見等ございませんか。</p>
(小川委員)	<p>2ページのウの介護予防ケアマネジメントの実績ですが、3職種1人当たりについて、早急にご対応いただきましてありがとうございます。この数字ですけれども、西部包括14.8、第1包括42.2で約3倍開きがある状態かと思えます。これがどの位が妥当かは、なかなか検討しにくいかとは思いますが、この3倍の開きについては今後、どのようにしていくかは検討が必要ではないかなと感じております。先ほどの相談のところでもアウトリーチ等が少ないのは、もしかするとこういったところで、時間を使っているのかなと推測もされますので、今後どの辺の数字、基準値を目指していくかを、すぐにはお答えは難しいかと思えますので、包括さんとお話をしていただきながら、妥当な数字を出していただいてそれに近づける方向がいいのかなと感じております。</p>
(議長)	<p>各包括が、上半期について取り組んだ内容についてありますか。</p>
(小川委員)	<p>各包括さんで大変丁寧に記載をいただき、活動がまとめられていると思います。改めて、今回の数も共通して、地域住民に周知広報をしていくことの大事さが確認されているかと思いますが、ネットで検索して、「弘前、地域包括」と検索すると弘前市の包括支援センターのホームページが一番最初に出てきます。そこを見ていくと各包括が、順次掲載はされますけれども、もし可能でしたらその他、各包括のホームページが作られていて、そこで詳しく内容が紹介をされておりますので、リンクを貼っていただくとかは可能なものでしょうか。</p> <p>先ほどの電話相談もございますが、事前に何かしら見て情報収集してからご相談いただく方が、相談に乗っていただく包括の負担が減るのではないかなと思えますので、弘前市のホームページの中で全部掲載するということは大変難しいかとは、お金もかかるかとは存じますので、包括さんのリンク貼っていただいて、その中で詳しいことが紹介されると、住民の方にはいい情報かなというふうに感じておりますので、ご検</p>

	<p>討いただければと思います。</p>
(議長)	<p>事務局どうぞ。</p>
(事務局)	<p>ホームページの方のリンク張りが可能かどうか、検討して可能であれば貼りたいなと思います。</p>
(議長)	<p>東谷さん、認知症の活動に対して何かありますか？</p>
(東谷委員)	<p>この間、会の中で話をしたんですけど、最近つどいに来る方が、ほぼいません。これ、実は良いことかなと思っていまして、15年経つんですけど、15年前は相談場所がなくて、つどいにいらっしゃってたんですけど、今は、包括さんとか、カフェとか、サポーターとか、それ以外のいろんなチャンネルがあるので、来なくてよくなったのではないかなと、前向きに捉えている部分あります。ただ逆に、今の小川先生の話ですけど、対面で来られない方に、オンラインでやろうかなという話をしてる状況なので、先ほどもあったんですけど、その相談の受付とかも、電話だとしにくい若い方もいるかもしれないので、そういうのはぜひ検討いただければなと思います。あともう1個しゃべっていいですか。</p> <p>認知症基本法で、今12月に国会に認知症施策推進基本計画案が出た中に認知症バリアフリー宣言っていう、地域の企業が宣言して謳う物があるので、それは国で出しているものなので、怪しくないと思うんですけど、先ほど東部さんの方で、金融機関とかコンビニと言っていたので、それをやると離職防止になるそうです。国の計画では、企業も認知症を理解すると、離職防止になると書いていたのでよろしければ、よろしくをお願いします。</p>
(議長)	<p>社会福祉協議会で離職者に対する個別支援の窓口をつくったとか。</p>
(今井委員)	<p>具体的な個別支援、離職者に対するそういった窓口はやっていないんですけど、市、ヒロロの3階なんですけども、生活困窮者だとか、そう言ったすぐ就職できない方の窓口はございますので、そちらのセンターと連携しまして、そういったご相談の方が来ましたら、ご紹介したりとかしております。</p> <p>また、ゼロゼロ融資が終わりまして、大体今返済償還の期間</p>

	<p>に入っておりますので、そういった相談も最近来ておりました。生活福祉資金というんですけれども、その相談の方が、最近来られますので、先ほど言いましたヒロロのセンターの方と連携しながら、やっているというのが現状です。</p>
(議長)	<p>孤立化防止対策のその後は？</p>
(大津委員)	<p>その後ですがちょうど明日、実態調査の結果を茂森町会の定例会に報告させていただく予定でした。田中さん、三浦さん、南部地域包括支援センター長と学生も一緒に参加する予定でした。今後については、介護福祉課、南部地域包括支援センターと話し合いの機会を何度かもっていました。介護福祉課の田中さんの方から、補足をお願いいたします。</p>
(事務局)	<p>高齢者の孤立化予防対策として、今年度茂森町会を対象にモデル事業を行っておりました。孤立化防止見守り体制づくりのための実態調査を8月19日に行っておりまして、弘前大学医学部保健学科の学生と、南部包括支援センターの職員の協力を得ながら調査を行っております。調査では21名の独居高齢者の方を対象に、健康状態であったり、困りごとであったり、家族支援者など他者との繋がりがあるか、また見守りを希望するかどうかという調査をしておりました。</p> <p>この21名のうち20名の方は、他者との行き来や連絡があるということで、1名の方がなしという結果になっております。また、見守りを希望する方が15名おりまして、調査の後打ち合わせを複数回行っております。打ち合わせの内容としましては、見守りを希望しているこの15名の方、どういった見守り体制を作っていけるか。また来年度もどうするかという話をしておりました。見守り体制については、その希望する方が、誰に、またどんな方法で、どの程度の見守りをして欲しいかを確認する必要があると思っております。今2回目の調査を予定しております。また、調査の中では、見守りを希望するという方についても、自分が見守りをする立場として活動できるかどうかというのも確認してもらつつもりで、地域で孤立してる方が、自分も対象でありながら、自分も活動者として活動できないかというところを検討しているところです。</p> <p>また現在、見守り活動を実施するにあたってのマニュアルの原案を作成しているのですが、このマニュアルについても</p>

	<p>打ち合わせ途中であります。先ほどお話がありました茂森町会の定例会に、明日、介護福祉課と、大津委員と、南部包括支援センターの方、また学生の方で、調査結果の報告、見守り希望者への2度目の再調査、あと今後マニュアルを用いた見守り体制についての現況報告っていうのをする予定でありました。</p>
<p>(議長)</p>	<p>最近、多職種連携あまり出てこないですが、医師とか歯科医師とか薬剤師はどうか。</p>
<p>(石岡委員)</p>	<p>しばしば、地域に講話の機会や、たまに講演会等、依頼されるのはあるんですけど、それ以外のことはあまりないです。研修会とか、いろいろ開催しているようですけども、できれば、謝礼をつけてあげて欲しいです。というのは、貴重な時間を割いてというわけですから、できれば考慮していただければ、各包括の方でお金がないっていうのはよくわかるんですけど、そういうところも少し、私の意見として、一言。</p>
<p>(磯木委員)</p>	<p>薬剤師会の磯木です。</p> <p>薬剤師会の場合は、高齢者の方の集まりに、薬の飲み方や使い方の講習とか、講演会をやって欲しい、講師を引き受けて欲しいというのが、いっぱい来ていまして、私も暇なわけではないんですけど、若い薬剤師は勤務者が多いので、なかなか日中出れないんでどうしても、最後にうまらないと、会長に回ってくるんで、この前も平川市まで行って、お話してきました。この次岩木地区も、決まっています。</p> <p>今報酬の話もありましたけど、これは報酬になっているのでいいんですが、それよりも今地域ケア会議に薬剤師を置くんですね、厚労省の方で、調剤の点数表の中に、地域連携の活動をしているかというのが、算定要件の1つになるので、結構今は権利を取りたいので、手が結構上がるようになっています。ですけど、これが次の改定で算定要件を外れるとまた、お前行けっていうような状況になるので、こういったところをですね、報酬はともかく、業務の中の地域連携体制の加算の算定要件に、それぞれの職種がこう全部入ってくると、薬局経営者からすると、算定要件を取れる認定の薬剤師ともうどこの研修にも行かない薬剤師とは、やっぱり評価が変わってくるので、今後はそういうところも厚労省に働きかけていただいて、全職種で連携の活動すると。</p>

	<p>これからやっぱり看取りがどんどん増えていくので、なおさらお医者さんも忙しくなるし、薬剤師も何とか支えたいっていう、支えなければっていうような状況になると思うんで、そういうふうな感触を持っていました。以上です。</p>
(議長)	<p>ということで、医師会の方も地域ケア会議へ1回は出るように調整しているのですが、他職種はちょっと少ないなというも思っているんで、ぜひ地域ケア会議は他職種を集めてください。よろしくお願いします。</p>
(事務局)	<p>案件(2) 令和7年度地域包括支援センター運営方針について (資料4を説明)</p>
(議長)	<p>すごく難しく理解しがたいと思っている。小川委員よろしいですか。1つだけ気になったのが、公正中立って言葉が削除されたのでちょっとそれが気になったんですけど。</p>
(事務局)	<p>実際に、令和5年度と6年度の国の評価指標を確認したところ、地域包括支援センターに関する評価はそんなに変更がなく、市町村に関する評価指標が大幅に変わっております。</p> <p>今の公正中立っていうあたりは、運営上のものになりますので、介護保険法の施行規則で定めてるものに関しては、評価指標から大幅に抜けているのが、全体の印象になります。ですから、実際包括にはあまり影響がないというところです。</p>
(小川委員)	<p>説明ありがとうございます。</p> <p>評価については、今回包括の評価の枠組み、修正こうなりますよという、ご説明ではあったんですけども、8050、704010などに、国の方針として包括に対応を求めているということではないですが、全対象、全分野、対象でと、そうせざるをえないという実態が、身寄りのない方も含めて広がっているかと思えます。これまで話されていた、いわゆる重層の枠組みの中で、包括がどの位置付けになるかが、評価とは別に見取り図がないと、包括だけ評価を厳しくというか、大変圧迫感がある感じもしますので、可能であれば、重層の進み具合の情報がありましたら教えていただけるとありがたいなとは思いますが。</p>
(事務局)	<p>福祉部長の秋元です。</p>

	<p>重層的支援体制整備事業につきましては、今、役所内で検討委員会を立ち上げており、その中で、当然包括支援センターの役割も明らかになっていくと思います。私も先日、市川市と大田区に視察してきまして、それぞれ自治体によってやり方が違うので、そこも含めて検討してですね体制づくりを進めていきたいということで、今、詳細については言えないですけども、どちらにしても重層的支援体制の整備は進めているということです。</p>
(議長)	<p>他にないですね。案件に関してはこれで終わりたいと思います。あとは事務局の方から連絡をお願いします。</p>
(事務局)	<p>〈資料5：第8期弘前市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の総括について説明〉 (質疑なし)</p>
(事務局)	<p>〈資料6：居宅介護支援事業所による介護予防支援の指定について状況説明〉 (質疑なし)</p>
(事務局)	<p><最近のトピックを情報提供> ・補聴器購入費助成事業の申請状況 ・ただいまサポート爪Qシールの希望状況 (質疑なし)</p>
(事務局)	<p>・高齢単身者のサポート事業についての検討状況</p>
(梅村会長)	<p>孤独死の人数はわかりますか？</p>
(事務局)	<p>市では詳細がわかりません。</p>
(梅村会長)	<p>何とかこの孤独死に対しての数を、把握していきたいなど私は思っているんですけどよろしくをお願いします。</p>
その他必要事項	<p>会議は公開</p>